

Title	株式会社T社の成長戦略
Sub Title	
Author	田島, 佳典(Tajima, Keisuke) 河野, 宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2009
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2009年度経営学 第2447号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2447

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	河野	研究会	学籍番号	80830687	氏名	田島佳典
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;">株式会社 T 社の成長戦略</p>						
<p>(内容の要旨)</p> <p>本研究では著者の実家の会社の成長戦略の考察をとりあげた。本研究でとりあげた会社とは、株式会社タジマ（以下 T 社）という 2009 年現在半導体製造装置部品製造を主な業務とする会社である。</p> <p>T 社の成長戦略を考察するにあたり、本研究では主に T 社の歴史をできるだけ明確にすることに努めた。会社案内の中の沿革以外に整理された T 社の歴史がない状況で、まず 1951 年の創業、1961 年の会社設立以来の事実を各種データの整理やインタビューによって掘り起こすことに注力した。T 社の歴史を物語として、把握し事実の掘り起こしを促進する手段として、KBS でも教材として使われるケースの T 社版を作成するという方法を採用した。T 社のケースを作成するという意識で情報を整理したため、網羅的に T 社の歴史を整理できた。</p> <p>T 社について手に入るデータがある程度把握した 8 月、一ヶ月間 T 社工場において作業を行った。現場実習には当初実際に改善提案をするためのポイントを見つけるという目的があった。しかし著者に実務経験が無く、改善提案をするという事は難しかった。一ヶ月間 T 社の業務の現場で作業できたことは T 社の雰囲気を感じ、T 社の成長戦略を考察する上で会社の良い部分を肌で感じる事ができたという意味で良い経験になった。</p> <p>半導体製造装置という業界は半導体メーカーの設備投資に業績が左右されるため、業績に波のある業界である。1983 年に新規受注以降、T 社はそのような装置の部品を主に製造してきたので、T 社の業績も今日に至るまで浮き沈みがあった。売上に波があり、売上の波を見ると大体 T 社の歴史はある程度の期間で区切れるのではないかと考えた。1961 年会社設立より 2009 年現在までを 5 つの期間（フェーズ）として捉え、各フェーズでの課題と施策、外部環境等を期間毎にインタビューにより更に詳細に調査した。T 社の経営において特に重要と思われる項目を、営業・受注、技術・工法、設備、製品の変化、人材・求められるスキルという 5 つの項目としてそれぞれの項目に関して、5 つのフェーズでの施策をリストした。施策には、課題に対する施策と外部環境等の影響から偶然やることになった施策、更には思いつきでやった施策などが含まれると考え、最初のリストではそれら全てを含んでリストした。フェーズ毎に施策以外に外部環境と成果、課題をリストし前のフェーズの課題は次のフェーズの問題と捉えた。以上の各項目と、フェーズの施策、外部環境、成果、課題の表を作成し、フェーズ間での推移を考察した。前後のフェーズの成果、課題と当該フェーズの施策との結びつきを因果関係図の形で示し、それを 2009 年現在のフェーズまで作成する事で事実データより表出している現在の T 社の状況の因果関係を示した。</p> <p>T 社ケースの作成とフェーズの移り変わりや因果関係図を作成し、それを基に T 社が常に抱えている問題、表出している課題を解決すると起きてしまう問題、今後の外部環境の考察を踏まえた成長戦略を描くという順序で研究を行った。</p>						